

補綴治療におけるエビデンスというと、補綴装置の予後のメタアナリシスや、生体材料の物性評価というものが代表的なものとなるが、歯周治療や歯内療法、インプラントなどの他科の治療と比べると、実際の臨床に対するエビデンスの力は弱いと考えられる。さらに連携治療などが必要な複雑な症例となると、症例数が少ないだけでなく、全てが同じ条件の症例も少ない。また、咬合や異常習癖などの不確定要素も存在するだけでなく、成功か失敗かという判定も、補綴装置の破壊などという極端なパラメーターしか存在しない。だからといって、好きなように治療して良いわけではなく、利用可能な既存のエビデンスを用いた、繊細な治療計画を立案、実行することが、長期的な予後が見込める治療結果に繋がると考えている。

今回の講演では、複雑な症例に対して、治療の成功率を上げるために、関連するエビデンスを利用した治療戦略を、実際の症例を通じて示していく。